

SNW対話イン九州大学 2014 事後アンケート結果 (平成 26 年 12 月 11 日開催)

纏め：廣 陽二

1. アンケート回答者 10 名

(内訳)

・4年	3名
・M1	3名
・M2	3名
・－	1名

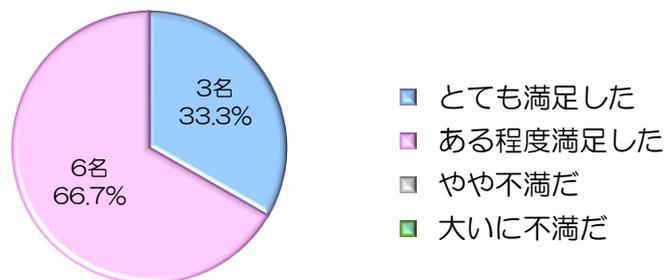
2. 対話会について

(1) 対話の内容は満足のいくものでしたか？その理由は？

とても満足した	3名 (33.3%)
ある程度満足した	6名 (66.7%)
やや不満だ	0名 (0.0%)
大いに不満だ	0名 (0.0%)

「ある程度満足した」が6割を超え、「とても満足した」を加えると100%になり、「やや不満だ」、「大いに不満だ」の回答はなかった。

対話の内容は満足のいくものでしたか？



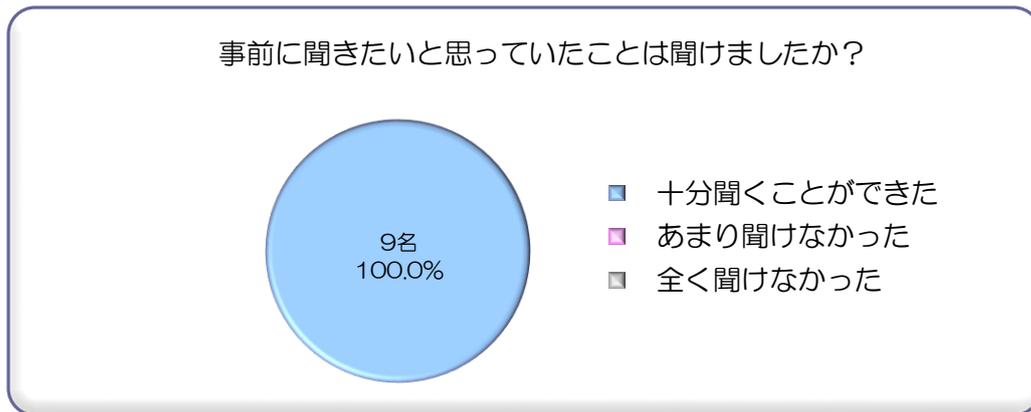
<理由>

- 疑問に思っていたことが解決したから。
 - ・ 自分が知らなかった情報や、実際に原子力産業に関わっている方の考えを知ることができたから。
 - ・ 普段聞けない話が聞けて勉強になった。
 - ・ 最終処分への理解が深まった。
 - ・ 技術的な話だけでなく、社会的に原発の抱える問題を議論できたから。
 - ・ 福島現状を詳しく知ることができた。
 - ・ 新たな知識をシニアの方々との対話を通じて得ることができた。

(2) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

十分聞くことができた	9名 (100.0%)
あまり聞けなかった	0名 (0.0%)
全く聞けなかった	0名 (0.0%)

白票の1名を除き、全員が「十分聞くことができた」と回答している。



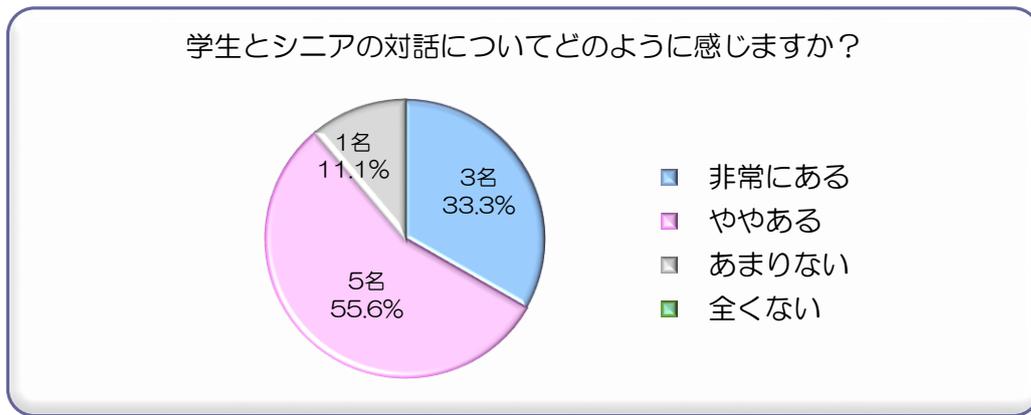
(3) 今回の対話で得られたことは何ですか？

- ・ 原子力に従事していた人の意見を聞いて、原子力について深く考えることができた。
- ・ 処分について研究する者として、政策や実情について詳しい情報を得ることができた。
- ・ 最終処分場を選定する上で住民を説得する方法。
- ・ 産業面での原子力発電について知ることができた。
- ・ 情報発信の重要性。
- ・ 原子力政策における国の対応の重要性。
- ・ 自分のテーマに関する知識。
- ・ 一般の方がどのような誤解をしているのか、社会的問題の背景など。

(4)「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

非常にある	3名 (33.3%)
ややある	5名 (55.6%)
あまりない	1名 (11.1%)
全くない	0名 (0.0%)

「非常にある」と「ややある」の回答が約9割となり、「あまりない」と回答した1名は“毎年でなく2年に1回でも事足りると思う”であり、「全くない」の回答はなかった。



<理由>

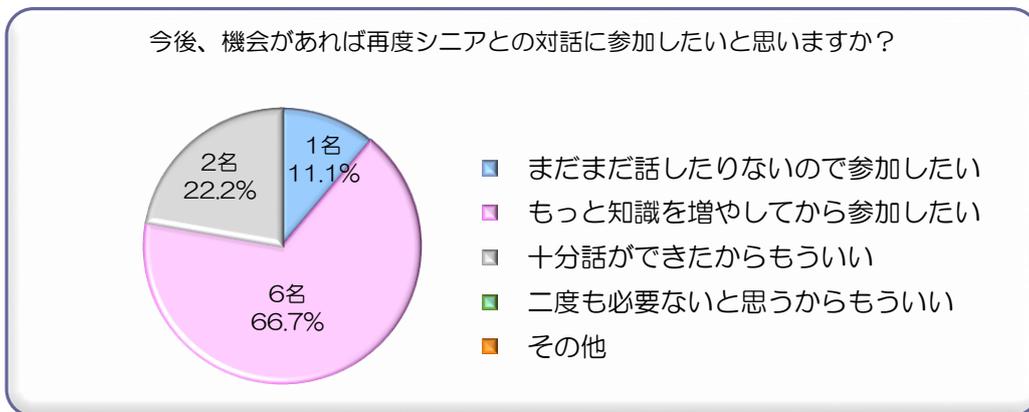
- こういった機会はあまりないから。
 - ・ 研究ばかりで、現在のエネルギー政策や処分の状況がどうなっているか、調べる時間があまりとれないので貴重な機会である。
 - ・ OB、OGからは学ぶことがたくさんあると思う。
 - ・ 大学では得られない、産業の従事者から話が聞けるから。
 - ・ 正しい知識を広めるために重要だと思う。(10代などを対象とした方がより効果的に感じる、友人、家族への拡散)
 - ・ もっと問題意識を持った学生が多くなると良い。
 - ・ 立場の異なった人の意見を得る貴重な機会だから。
- 毎年でなく2年に1回でも事足りると思う。
 - ・ 今後は原子力に反対の人の観点も知りたい。

(5) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

まだまだ話したりないので参加したい	1名 (11.1%)
もっと知識を増やしてから参加したい	6名 (66.7%)
十分話ができたらもういい	2名 (22.2%)
二度も必要ないと思うからもういい	0名 (0.0%)
その他	0名 (0.0%)

「もっと知識を増やしてから参加したい」の割合が一番高く6割を超えた。

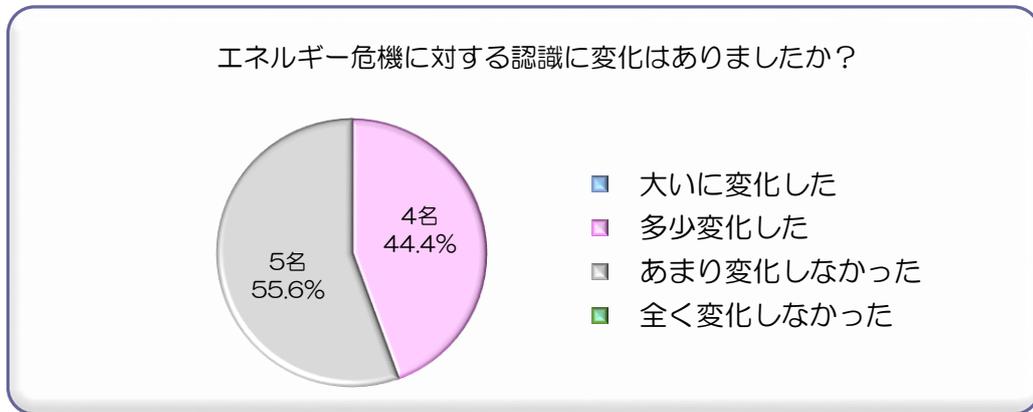
「二度も必要ないと思うからもういい」、「その他」の回答はなかった。



(6) エネルギー危機に対する認識に変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	0名 (0.0%)
多少变化した	4名 (44.4%)
あまり变化しなかった	5名 (55.6%)
全く变化しなかった	0名 (0.0%)

「あまり変化しなかった」と「多少変化した」に回答が二分した。「あまり変化しなかった」の回答理由は、「ある程度知識があったから」、「常にエネルギー問題を意識しているから」であり、「多少変化した」の回答理由は「切迫した状況であることに変わりはないが、研究などで進展している部分もちゃんとあることを認識できた。また、国家間の関係についての理解が深まった」、「原子力発電の必要性を再認識できたから」、「何が本当に問題であるか明確になった」であった。



<理由>

- ある程度知識があったから。
- ・ 切迫した状況であることに変わりはないが、研究などで進展している部分もちゃんとあることを認識できた。また、国家間の関係についての理解が深まった。
- ・ 常にエネルギー問題を意識しているから。
- ・ 原子力発電の必要性を再認識できたから。
- ・ 何が本当に問題であるか明確になった。

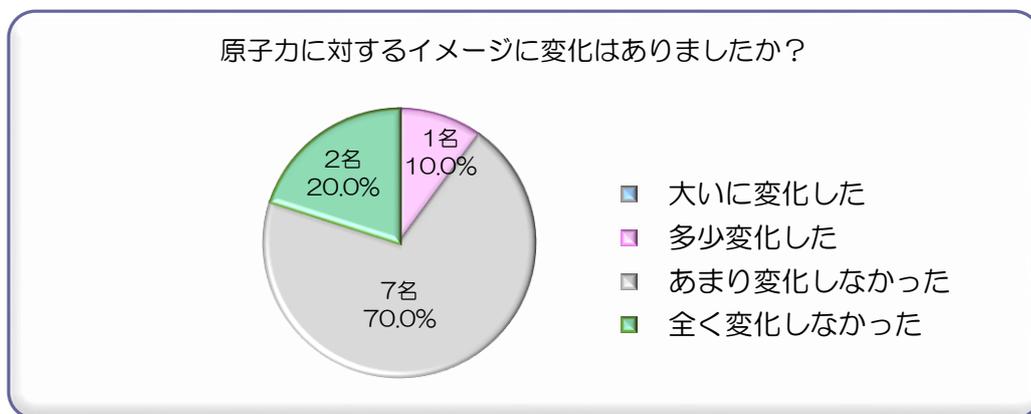
(7) 原子力に対するイメージに変化はありましたか？その理由は？

大いに变化した	0名 (0.0%)
多少变化した	1名 (10.0%)
あまり变化しなかった	7名 (70.0%)
全く变化しなかった	2名 (20.0%)

「あまり変化しなかった」の回答が7割を占め、回答理由は、“ある程度知識があったから”、“自分が認識していたものや予想していた内容と一致する点が多かった”と同様の意見であった。

また、「全く変化しなかった」2名の回答理由は、“原子力を学んでいるので”と空欄1名であった。

なお、「大いに变化した」の回答はなく、1名が「多少变化した」と回答している。



<理由>

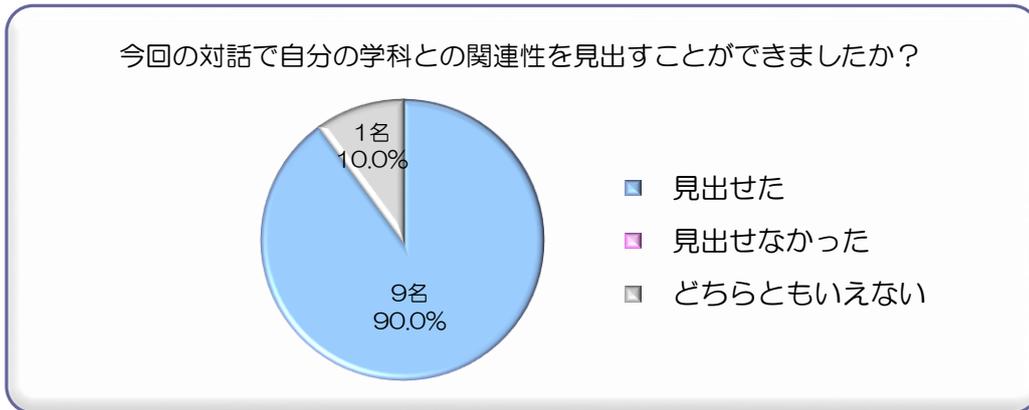
- ある程度知識があったから。
- ・ 自分が認識していたものや予想していた内容と一致する点が多かった。
- ・ 原子力を学んでいるので。
- ・ シニアの方との意見が近かったため。
- ・ もともとある程度の知識を持っていたため。
- ・ 自分が正しい知識を持っていると確認できたので。

(8) 今回の対話で自分の学科との関連性を見出すことができましたか？その理由は？

見出せた 9名 (90.0%)
見出せなかった 0名 (0.0%)
どちらともいえない 1名 (10.0%)

1名を除く全員が「見出せた」と回答している。

「見出せなかった」の回答はなく、「どちらともいえない」と回答した 1 名の理由は空欄であった。



<理由>

- 自分の研究内容がどこに関連しているかを再認識できた。
- ・ 主に最終処分の話が主体だったので。
- ・ 原子力を専攻しているから。
- ・ テーマが自分の研究分野と大きく関わっていたから。

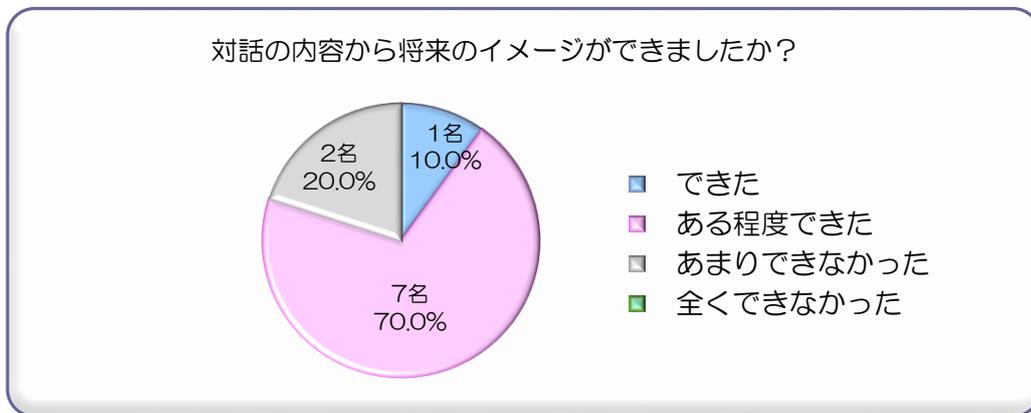
(9) 対話の内容から将来のイメージができましたか？その理由は？

できた 1名 (10.0%)
ある程度できた 7名 (70.0%)
あまりできなかった 2名 (20.0%)
全くできなかった 0名 (0.0%)

2名を除き全員が「できた」、「ある程度できた」と回答している。

「あまりできなかった」の2名の回答理由は、“自分の希望職種がはっきりと定まっていないから”、と空欄が1名であった。

また、「全くできなかった」の回答はなかった。



<理由>

- ・ 原子力関係の職に就きたいと考えているから。
 - ・ 処分の時期が不明瞭だが、他の事象に関してはイメージすることができた。
 - ・ 今後、原子力の必要性を感じた。
 - ・ 今後、原子力が抱える大きな問題が知れたから。
 - ・ 対話を掘り下げれたから。
 - ・ 何が問題なのかが分かったから。

- ・ 自分の希望職種がはっきりと定まっていないから。

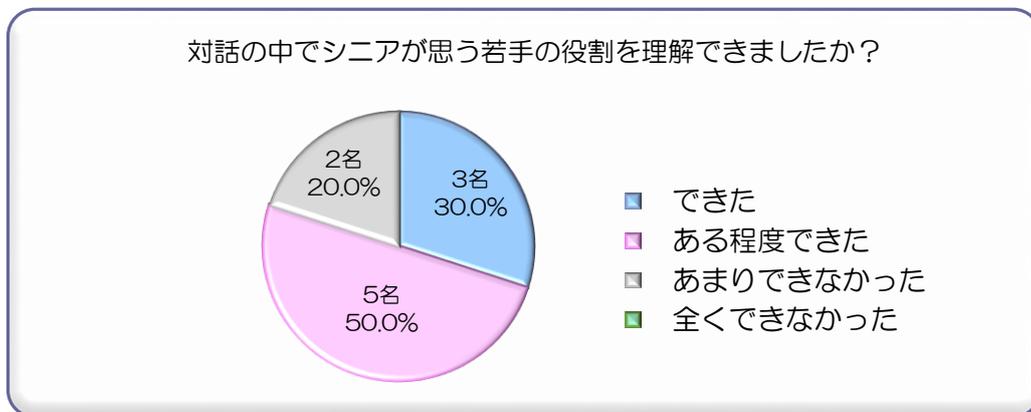
(10) 対話の中でシニアが思う若手の役割を理解できましたか？またその理由は？

できた 3名 (30.0%)
ある程度できた 5名 (50.0%)
あまりできなかった 2名 (20.0%)
全くできなかった 0名 (0.0%)

8割が「できた」、「ある程度できた」と回答している。

「あまりできなかった」の2名は、“多少、勉強不足であった気がする”と空欄が1名であった。

また、「全くできなかった」の回答はなかった。



<理由>

- ・ これからの将来を担っていくのは自分たちだと感じたから。
 - ・ しっかりとした志を持って原子力に携わることが大切だと感じた。
 - ・ 原子力に知識がない人たちに、情報を発信していくこと。
 - ・ こちらの話をきちんと理解した上で、意見を述べてくれたから。
 - ・ 対話の中で自分たちのやるべきことが、はっきりと浮き彫りになったから。

- ・ 多少、勉強不足であった気がする。

(11)自分が思っていた若手の役割とシニアの考えは違いましたか？どのような違いがありましたか？また、シニアの考えを聞くことで、自分の考えに変化はありましたか？できるだけ詳しくお答えください。

- ・ 研究の立場としては、未だ解明されていない現象を理解できるようにするだけで良いかという考えが少しあったが、志を持つことが大切だと思った。
- ・ 原子力に対しシニアの方に近い認識があるため、考えが大きくは違わなかった。
- ・ ほとんど一緒だった。
- ・ 具体的に何をすべきかを考えることが重要だと感じた。
- ・ 各人が当事者意識を持ち、説明をきちんとすることが大事。
- ・ 自分の研究テーマに必死になるだけでなく、原子力に関する正しい知識を広めるべきであると感じた。

(12) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・ 普段聞くことができないような話を聞いて良かった。
 - ・ 本日はありがとうございました。
 - ・ 産業での話を聞いたのが良かった、もう少し発表資料を作る時間が必要だと思った。
 - ・ 是非様々な場所（原子力専門か否かを問わず）で開催するべきだと思った。
 - ・ 知識が足りずあまり議論に参加できなかったのが、知識を増やしてから再び参加したい。
 - ・ 深く話し合うことができたのに、うまくまとめて発表できなかったことが申し訳なかった。

- ・ 自身の経験をもとに原子力が安全とされていることは理解できたが、反対派の人の意見も聞いてみたい。